

中里小学校 学校だより

なかざと

令和5年11月2日

第12号

文責 大石 泰文

学校教育目標：夢をもち、みんなと共に生きる子どもの育成～中里仲良し(共に学び、共に育つ)～

読書の秋

「校長先生、『お母さんがお母さんになった日』を読んでいいですか？」

先日、男の子が少し恥ずかしそうに尋ねてきました。校長室前に10冊程度の絵本を並べていますが、その中の1冊を借りたいという申し出です。「長崎県の子どもにすすめる本500選」(平成22年度公表)「長崎県の子どもにすすめる本500選・精選版」(令和元年度公表)から選書した本を中心に置いて、時々入れ替えるようにしています。

特に2年生の子どもたちが「校長先生、本を借りていいですか?」とよく尋ねてきます。これまで、最も反応が大きかった本が「お母さんがお母さんになった日」(長野ヒデ子/作 童心社)です。初版が1993年のロングセラー絵本ですから、子どもたちを強くひきつける何かがあるのかなと思います。

内容は、期待と不安でむかえる、はじめての出産・・・そしてあかちゃんが生まれ、はじめてお母さんになるまでの1日を描いた絵本になります。「あなたのおかげで、わたしはおかあさんになれたのよ」そんな言葉に子どもたちは心が動かされるのかもしれません。

さて、日に日に秋が深まり、読書にぴったりの季節となりました。

中里小学校の読書に関するデータを学校司書の山口美和子先生に調べていただきました。

本校には、8860冊の蔵書があり、4月からこれまでに購入した本の冊数は180冊です。10月末までに貸出冊数が1番多い学年は1年生で、なんと6166冊も借りています。全校でも

23556冊の貸し出しがあるので、かなり読書意欲が高い学校といえるでしょう。

令和5年度の人気図書ベスト3は①「じごくバス」(有田奈央/作 ポプラ社) ②「いちにちごっこ」(あきやただし/作 学研) ③「びょういんのおばけずかん なんでもドクター」(斉藤洋/作 講談社)です。

各学年の多読者は次の皆さんです。

1年3組 前田唯斗さん 142冊	4年3組 岩政香凜さん 144冊
2年2組 森 真優さん 95冊	5年2組 松田美穂さん 84冊
3年3組 辻 裕大さん 90冊	6年3組 麻生希輝さん 131冊



お話ポッケの皆様のおかげで本好きな子どもが増えています！
ありがとうございます！



「あなたはなぜ本を読んでいるの?」と6年生の子どもたちに尋ねると、えっ!?という表情の後、「知識を蓄えるためです。」「文字を読むのが好きだからです。」「内容が面白いからです。」「言葉を知るためです。」そんな答えが返ってきました。

「文化の日」前後の2週間、10/27から11/9までは「読書週間」です。

本校の子どもたちが、これからも読書が大好きな子どもに育ってほしいと願いますし、素敵な本とたくさん出会って人生を豊かに過ごしてほしいと思います。